



こども・若者と共に考えるユースワーク 地域円卓会議 in 那覇

いつでも、だれでも居られる「機会」と「時間」、
そして「つながり」を支えるユースワークのあり方を考える

実施報告書

日 時： 2025年11月19日（水）18:15～21:00（受付開始 17:45～）
場 所： なは市民活動支援センター会議室1（那覇市銘苅2-3-1 なは市民協働プラザ2階）
共 催： 那覇市、NPO法人沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい
企画運営： NPO法人まちなか研究所わくわく、公益財団法人みらいファンド沖縄

報告書作成
NPO法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】こども・若者と共に考えるユースワーク地域円卓会議 in 那覇



■日 時：2025年11月19日（水）18:15～21:00

■場 所：なは市民活動支援センター会議室1

■着席者数：9名（論点提供者、司会、記録者含む）

■参加者数：62名（NPO・市民活動団体等、大学、企業等）

■共 催：那覇市、株式会社大翔

■企画運営：NPO法人まちなか研究所わくわく

公益財団法人みらいファンド沖縄

論点提供 室伏 長子 (NPO法人沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい ユースワーカー)

いつでも、だれでも居られる「機会」と「時間」、そして「つながり」を支える ユースワークのあり方を考えるう

こども若者にとって、課題を抱えているかに関係なく、「自分らしくいられる」「ほっとできる」機会や時間は大切です。ここ数年、生活に困りごとを抱えるこども・若者たちへの支援は増えてきましたが、困難な状況になる前の支援は、まだまだ足りていないのが現状です。NPO法人沖縄青少年自立援助センターちゅらゆいでは、「ユースセンター・アシタネ」を立ち上げ、予防的アプローチの取り組みを始めました。小さな“やってみたい”を形にしていく経験は、自分で選び、決めて動く力と、自分たちの場をつくる自由さを育てていきます。今回の円卓会議では、そうした機会や関わりをどうつくっていかれるのか、ユースワークの役割やあり方について、みなさんと一緒に考えます。

※当事業は、なは SDGs 推進助成事業に採択されており、この円卓会議を皮切りに多くの仲間作りを出資という形で支えるというチャレンジも行う予定。

センターメンバー



室伏 長子
NPO法人沖縄
青少年自立援
助センターち
ゅらゆい ユー
スワーカー

村吉 陽翔
ユース
センター・
アシタネ
利用者
高校2年生

屋良 陽子
沖縄県立
真和志
高等学校
教頭

伊禮 道子
那覇市
中央公民館
館長

山崎 新
子どもの権利
ネットワーク
おきなわ
代表理事

田邊 裕貴
株式会社
アザナ
代表取締役
社長

川中 大輔
関西学院大学
人間福祉学部
専任講師、シ
チズンシップ
共育企画代表

<板書記録>

令和7年度なはSDGs推進事業
～多様なつながり地域づくり～

2024～2025年度
助成事業
SIB石川外

2025.11.19 (木) ①
18:15～21:00
@なは市民活動支援センター

こども・若者と共に 考えるユースワーク 地域円卓会議 いっても、だれでも in 那覇

居られる「機会」と「時間」、 そして「つながり」を支える ユースワークのあり方を考える

(論点提供)
室伏長子
村吉陽翔
屋良陽子
伊禮道子
(司会)
南信介
川中大輔
田邊裕貴
山崎新

共催 那覇市
NPO法人沖縄青少年自立
援助センター ちからゆい

企画運営
NPO法人まちなか研究所わくわく
(公財)みらいアンド沖縄

論点提供 室伏長子

NPO法人沖縄青少年自立援助センター ちからゆい
ユースワーカー

- 声の応え 制度の狭間を埋めてきた道のり 2007～
- ハイリスク支援を土台に、「困る前」の段階から関わる予防的支援へ
- ① 子ども支援のひろがり
- ② 中高生以降の若者支援不足
- ③ 子どもの貧困率 29.9% → 21.8%
- ④ 県内の居場 361か所 那覇市 83か所

子ども若者 3ドボケン
社会的孤立 困難の解消

多様な遊びの創出

子ども若者を ハートナーチering

「狭間」で必要な支援が届かない
/続かない若者

- 支援の切れ目 (15・18・20歳)
- 児童館・公民館は、中高生以降 利用しづらい
- 予防的支援の不足

ハイリスク ブローカー
ピビューレーション ブローカー
利用へのハードル
数が不足

②ユースセンター・アシタネの実践

那ハホ松川 平日夜間、土日日中

※公的機関・サービスがない時間帯

2023.4~2024.3

開所 229日 のべ 1,021名

2024.4~2025.3

開所 86日 のべ 552名

③北欧のユースワーク

余暇は
「権利」

スポーツ
アリーナ

参画が
当たり前

移行型
フルム型

若者の民主主義と余暇を育む

自分で選ぶ決める
経験

回復・癒癒性
遊びの時間

小さな“やめてみたい”と形にしていく
経験は、自分で選び決めて
動く力と、自分たちの場とつなぐ
自由を育てる

一緒に考えたい!

- 沖縄型ユースワーク
- 困難になる前に
ユースセンターとは? 若者が足を運ぶには?
- 機会・時間つながりと
沖縄でどうつくるのか?

③ 村吉陽朔さん

ユースセンター・アシタネ 利用者

オンライン→顔がみえない寂しさ

県外視察→北海道へ

(アシタネ → 週6日) わがまま
巨太り

小6: 不登校 → kukuluへ

中3: ユースセンターで見て、利用へ

共通の話題→いじられることでさりげなくまた明日も行こう。

おしゃべり、ボードゲーム、料理
日々によってやることわかる。

外での
出会いは
大切

④ 屋良陽子さん

沖縄県立真知志高等学校 教頭

R9年度 学科改編

全日制・単位制普通科 ⇒ 総合学科

アシタネ・祭タタリ公民館との連携

ボランティア体験 → 単位に加算 (上級)

地域貢献学

小中学校へ通えない子たち
好きな分野みつけほしい。
地域につながることで

情報少ない

生にも知ら、知らない、体験して
キャリアへつなげる

地域つながり、支える
存在になつほしい。 国の方針も
校長の方針も

支える
側への
成長と

伊禮道子
那覇市中央公民館 館長

那覇市7館(公民館)

市民の学習活動・交流の場

こどもへ高齢者 9~22時

利用1287件 うち高校生以下95件(7.4%)
→人口比(15歳未満4%)のびじある

ダンス・学習・音楽・ゲーム・料理

中高生たくさんきてほしい 工作
公民館がみんないな・子どもいる
どう知つてもうえるか
放課後の時間はイガイで空いてる
利用団体いなかたらホール開放したり

山崎新
ごとの権利を、ワークおきなわ

いっしょにあそぼう
みまも、ひいてほし
昨日、今日 何がかわった?
みまもれる世界の中で
“やりたい”がでてくる
なは市内11館の限界
中高生の利用率→全国一
(沖縄の児童館)
高校卒業→7月仕事やめてさあ
やすむ・〇〇とやる
意見表明→どうしようか
共有・わがまま言える

子どもの〇〇やりたい
せばまっている

無料でいれる場
がない

健全育成
セキリテが社会で高まり
居場所もばっかりでは

余白の時間 → 社会で価値とい認められな

大人のニーズから子どもを守る
子どもの時間もばっかり
習うことで

社会の働き方改革
ハイジョ
子どもの権利

ユースワーカー
よりうん そこにはる人

田邊裕貴
株式会社アザナ 代表取締役社長

アズナ・プロデューサー WEBプランディング

子どもの貧困の連鎖
子ども食堂→対処療法
食以外で提供できるもの

子どもの権利侵害するのは大人
会社・働き方
キャリアが守られる
自分に余裕・スペースを作る
企業もかわらな…といけない

川中大輔 グループ
関西学院大学 / シテスンシップ共育企画

わがまま → 言える

ユースリーク: 若者が幸せになる

"この人に言ってみようか"と思える
"やりたいこと"がわからない
"やりたが、たことを
みえなくなる

1対1の関わりの限界

いろんな人・多様な人々との
まじわりをつくる

生き生きやる地域・社会

ユースリークは地域・社会へはたらきかける

不登校の子は、学校にいみで変わる先生
大人・しつみが変わっていく必要
若者にきかなくてわからない

意見表明権 ⑦

view (opinion)
モノのみかた・感じ方

場・空間・しつみをかえていく実感
が全って
言える

ユースセンターの予算の
配分を若者が決める

ほしいともに届く
ほって
気ばく
気がかせるしきけ
生徒手帳
フロー

自助努力
にかかる
のはあぶな
△社会全体
で

サブセッション

誰が利用できる?

自分がつかれない

予防 / ハイリスク ⑧

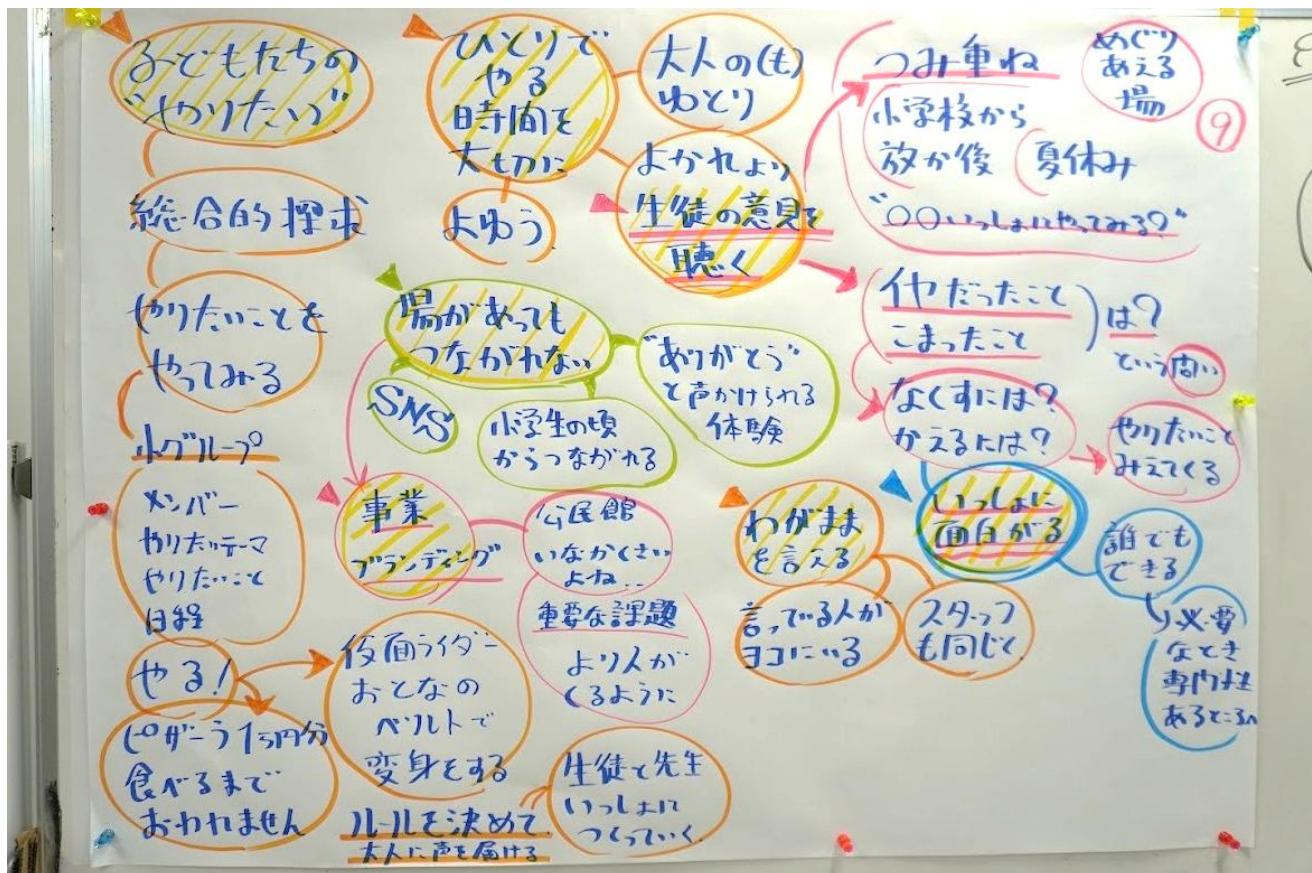
5人家族
神奈川県
高専→企業
職職→自死
弟 もれた
わがりやつ
みえ方

わがまま
きてほし

カレンターミツ
やってみたら

でもやり方つかない
たれかでいいしょに
やりたがけて
実現できな

関わり方がまずかい
お互いが
しきけが必要
みんなでいいしょに
やりたい
とでう



室伏さん 沖縄
資源はある。ここやがった。
ユースセンター利用を一方的
エコシステムつくる
おもしろがりながら
私たちが幸せになるために、
おむな・あう・うめあう
わがままいえろこ

■今後のアプローチの方向性

1) 中高生を支えるユースセンターの必要性

中学卒業や18歳は制度の切り替わる節目となり、支援や情報が途切れやすい。中高生は気持ちや興味がゆらぎやすく、その自由さを受け止め安心して過ごせるユースセンターが求められる。ユースセンター、児童館、公民館、それぞれの機能を活かしながら連携し、若者に居場所の選択肢を作っていく必要がある。

2) こども・若者の「余暇」は権利

こども・若者が安全に自由な時間を過ごせる余暇は、本来保障されるべき権利だが、現状では「余暇」は十分に必要な価値として認められず、さまざまな場面で奪われている。これを可視化し、策定中の那覇市「子どもの権利条例」に余暇や遊びを明文化し盛り込むことが重要である。

3) 那覇におけるユースワークの定義

こども・若者を中心に据えたユースワークでは、関わる大人の役割を明確にし、常に利用者周囲の関係性や変化を意識し活動することが重要である。スタッフの専門性を活かしながら、那覇の子どもたちの状況に合わせたユースセンターとユースワーカーのあり方を、その場所だけでなく人材配置とセットで定義していくべき。

■参加者によるサブセッション

いつでも、だれでも居られる「機会」と「時間」、 そして「つながり」を支えるユースワークのあり方を考える

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

- ・ 大人も忙しい→ 遊びにも誘われない
- ・ 会議の参加者多い 若者支援の関心高い
- ・ 中学生 6.7月からアシタネ利用
- ・ 学校、児童館、公民館 熱意ある人いるのに違う方向向いてる
- ・ ククルは支援している感覚ない 一緒に遊んでいる
- ・ 歌いたい人が歌える
スタッフもやりたいことできる→スタッフはどこまで自分見せる
- ・ 学校→もっと自由にしてほしい
- ・ 小学校高学年から不登校多い
- ・ 児童館キャバの問題
乳幼児の対応しながら 不登校の対応できない

②

- ・ 何がしたい? ときかれても答えられない
- ・ 選ぶにも体験がないと決められない(オレンジジュース? トマトジュース? グレープジュース?)
- ・ 雑談で
これ好き やってみたい→try 失敗してもOKおもしろがる チャレンジできる♡
- ・ もうちょっとゆっくりすればいいのに!
中学→高校→大学? スピードが早い!! 「疲れた・休みたい」
- ・ おとなは価値感が固まってしまっていて今の若者の気持ちは分からない!!
- ・ 若者にききたい

③

- ・ 関わりの段階・?
- ・ かかわり方が むずかしい
- ・ 「子どもを理解すること」といわれるけど大學生でもむずかしい
- ・ 知る
- ・ 「こういう時どうしてほしかった?」って言われるしききたいと思うけど自分で考え
- ・ 行ってやらないこともない→ないと生きられないからだになってる
- ・ “ガチわがまま”きいてほしい
- ・ 行動おこさないから実現しない
おこし方がわからない
- ・ 言いたくなる話題に食いついて
- ・ 大人→ 子どもへの関わりむずかしい
- ・ 子ども→のっかつてほしい。
「やって」といわれてもどうしよう…
- ・ やりたくなるかけ
- ・ やりたいときに実現できる環境
└つながりが必要

④

- ・ 居場所が小学校の近くにあると行っても孤立してしまう→すでにグループがあるロケーション、スタッフが大切
- ・ 子供たちは居場所の雰囲気にそまる
- ・ 不登校もみんな同じとして居場所をつくる
- ・ (感想)皆が立場もちがう中たくさん集まってどうにかしようとしてくれている
- ・ 選択肢が多いといい
- ・ 100%合致することって少ない
- ・ 同じ属性の人があつまるところと色々な人があつまるところ両方あっていい

- ・ 元気になったら人とかかわるような選択肢が◎
- ・ 居場所があった上でどのような支援ができるか。
↳ やる気が出るようなこと
- ⑤
 - ・ 寝る子もいるけどそれだけでもいい。場所に“目的”をもとめすぎ
 - ・ 大人と対トウに話す機会が必要
 - ・ 大人と子供一緒にゲームや勉強出来る場所が必要
 - ・ 考えなさすぎるのもよくないけど考えすぎる(子のことを)大人もふえてる
 - ・ 時間がなさすぎ(何もない時間)
- ⑥
 - ・ 南風原町社協委任
 - ・ 中高生の居場所
 - ・ 予防的アプローチ
 - ・ 児童館、卓球) 居場所どこにあるか知りたい
 - ・ 弟兄、兄自殺、弟、問題行動、負のサイン、切れ目が危ない
 - ・ 分かりにくいハイリスク内にこもる
 - ・ 人権擁護、若者の居場所、法務大臣委嘱
- ⑦
 - ・ 発信しなさいよと言われる
 - ・ 行政は「もれなく発信」と思っている
↳ こぼれる。見にくく。だどりつきにくく
 - ・ 必要なときにとどく仕掛け◎
 - ・ 学校とは難しい
 - ・ 真和志生徒に向けて発信している
 - ・ 高校が中継している
↳ 中継点必要
 - ・ つなげてくれる人
 - ・ 家庭環境
 - ・ 親が決めちゃう
- ・ 学校に掲示などは?
- ・ 行政システムは (知ったもん勝ち感)
- ・ 発信弱い? (結果のみ) 手段×
- ・ 制度 (大人同伴) など
- ・ **発信の質 行政の特性**
↓
必要な情報の中継地点
- ・ システムの利用
- ⑧
 - ・ 学校に行けてなかったけど居場所に行けなかった
 - ・ 成人した後の支援について 予防はどういう場所があるのか) イメージ
 - ・ 友人が居場所を必要としてるけどこれない。(プライド)
 - ・ 楽しさを知っていく
 - ・ 初めの1歩が必要 ←居場所につながるためには?
 - ・ 情報が必要。
 - ・ 社会をつくる
 - ・ 先入観がない
 - ・ 入口が広い
 - ・ 社会のすごしやすさ
 - ・ 自分の考えがゆうせん
 - ・ 学校のあり方
 - 個人の自由度
 - 学校での居場所
- ⑨
 - ・ パーラー問題、うがんぼう ポイ捨て..排除
 - ・ 人と関わる場所→仕事しかない
いっしょに楽しめる場所
 - ・ こども・若者のしあわせ
 - ・ 自治会、こども会
 - ・ 意見を言える
 - ・ こどもの貧困対策
 - ・ あらゆるところに線引き
 - ・ 空白の時間に集まれる

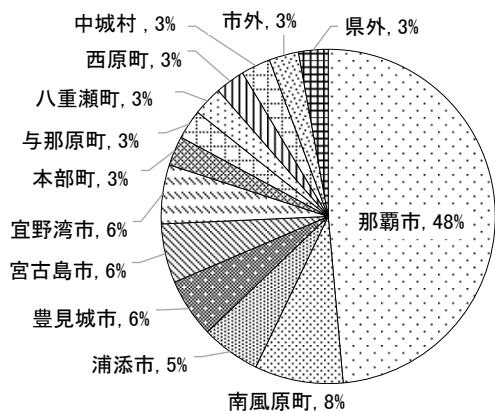
- ・ 不登校でもルール「どこからきてもいい」 知らなかった
- ⑩
- ・ 大人の余暇余白について改めて考えた
 - ・ 余暇なにしてる?ゲーム・音楽、中々ない、子どもがゲームばかり、釣り、友人
- ⑪
- ・ むずかしい話をしてるなー
 - ・ ユースセンタースタッフでもあるがその場に娘も来ている
 - ・ 子どもにとって安心一親(移住者、ひとり親)も安心ー子どもも安心
 - ・ 得意を提示する場をつくった(まわし高校)
- ⑫
- ・ ①居場所
食事の提供だけでは良くない
インパクトがあった。
 - ・ ②児童館公民館に弟(中学生)が行っている。
→来てもいいよの声かけがあった。
つながりがあつていいなと思った。
 - ・ ③子どもの居場所
大人の事情でなくなっている。
[部活動がなくなっている]
保育者が見てくれていたら良いけど、みれない学校だと部活動がなくなっている。地域格差うまれている。
 - ・ ④19さい!!
色んな人・年代と関わってみたい。仲良くな
りたい
- ⑬
- ・ 子ども若者メンバーでの円卓会議できたら
いいなー
 - ・ 若者の声
 - ・ 不登校、ひきこもり経験者でもあった…
 - ・ 居れる場所が増えてきている!
 - ・ 自分が困っていた時は 公民館のとりくみも
- ⑭
- ・ 選べるせんたく肢が増えている
 - ・ 合う場所、合わない場所がある!!
- ・ 熱意が伝わった!
 - ・ これからのことかと思いきや今もう..
 - ・ **居場所**
└ちょくちょく行ける、自由に遊べる、イベントとか考えてできる(音ゲー交流会)、kukuluみたいに
 - ・ あらゆる場所追いやられている
 - ・ 学校 NOT「収容所」くらい、楽しくない
 - ・ 家は共働きで疲れているし居場所ない
 - ・ 学校 0-6?土曜
 - ・ 塾囲いこみすぎ
 - ・ ストレス←一人ひとりみすぎ、プレッシャー
 - ・ 楽しそう
 - ・ みんな一緒に困っている
 - ・ 企画
 - ・ 予算も
 - ・ 自由だからこそ決めていくつくっていく
 - ・ 居場所と見える
 - ・ あいている
 - ・ 理解←youthCaféある、共生社会
 - ・ └情報・・・→どこに向けて発信すべき考
えている

こども・若者と共に考えるユースワーク地域円卓会議 in 那覇 参加者アンケート集計

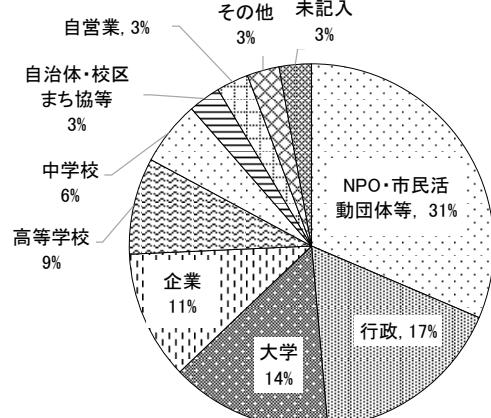
◆概要

- ・日 時：2025年11月19日（水）18:15 - 21:00
- ・場 所：なは市民活動支援センター会議室1
- ・着席者：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：62名（行政、自治会等地域組織等）
(アンケート回収35名、回収率56%)

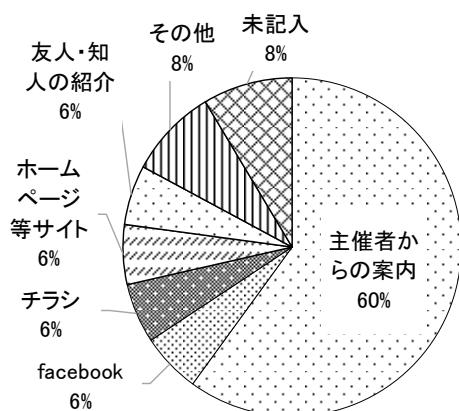
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.3 (5点中)

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足	未記入
18名	10名	6名	1名	0名	0名

5. 満足度の理由

(5. 満足)

- ・多くの視点を頂きまして 情報量がとても多いので振り返りをじっくりやりたいと思います。
- ・充実した時間でした！とても楽しいです！企業側からの発言。新鮮で深堀りしてほしい。
- ・様々な立場から若者について考える人が興味深かったです。
- ・自分の子供の頃を思い出し、あの時は何もなかった、だからこそ学校におもしろいを探していました。自分で考える“場所”と“きっかけ”が必要を感じた。主体性を引き出すコーチングも必要かな?と思いました。
- ・私たちは高齢者の問題にアプローチしています。子供に関しての問題は詳しくなかったので、みなさんの話を聞き、問題の根本は似ていると感じた。社会が多様化する事で、問題も多様化していると思います。行政だけでは限界が来ているので、企業、地域住民、ボランティア、学校 etc が一丸となって取り組んでいけたらいいですね。
- ・私の知らなかつた事業・取り組みが分かり、様々な人の意見をより身近に聴き考えを深められた。
- ・ユースワークができる多様な主体がすでにいっぱいあるのだなと感じた。ワガママがで

- きる、横にいるが心にひびいた。
- 色々な立場の方が意見等を説明していて、とても勉強になった。子どもだった自分、大人になったばかりの自分、教員の卵としての自分の立場として参加させてもらったが、共感できる部分もたくさんあり、来て良かったと思った。
 - 自分がこれまで参加した会議と違って皆と一緒に考えているところがいい。
 - 自分が持っていない価値についてふれることができたため。
 - 私は沖縄に移住して 13 年、シングルマザーでユース世代の子を持つ母 です。ユースの娘の安心は母の私の安心にもつながり、それがまた 娘の安心にもつながるので、この豊かな大人たちが沖縄にいるなら 大丈夫だ！ 私ももっとわがままを言おう！という気持ちになりました。
 - 最前線で活動されてる方の生の意見を聞けて良かった。
 - ちゅらゆいさん、アシタネさんの取り組みを知れたこと、色んな箱があり、検討次第では子どもたち若者たちの居られるところは増やせそうだと思いました。
 - 前向な考えをたくさん聞けました。
 - 進行がスムーズでした。特に田邊さんの企業からの視点からのお話が新鮮でよかったです。
 - 様々な立場の方の意見が聞けた。
 - 様々な人の話を聞けたから。
 - ハイリスクの支援は、見えるのでやっていく。予防的な支援を見つけだすのは 難かしい様に感じた。
- (4. 概ね満足)
- センター・メンバーにユースが複数人いても良かったかもです。
 - 現場の人の意見だったり、グループワークを通じて、自身の体験を聞いて勉強になったため。
 - 現在の若い人たちの問題対応しようとしている関係行政策等の課題等わかりました。
 - 若者のポピュレーションアプローチにおけるユースワーカーの関わり方について多角的な意見が聞けた。
 - 英国でユースワークを学び、実践をしている中、共感したり、気づきの部分があった。地域の重要性を改めて考えさせられた。
 - 自身の知識が足りない分野だったが感覚が理解できた。
 - 興味の入り口としていいなと思いました。急になにかを決めようとハードルが高いので、論点を共有するという場があるのがいいと思った。
 - 楽しかったけどすごいねむかかったです。
 - 話を聞いている上での新しい発見や、共感できるところがあつたり、サブセッションでは自分の意見、本音を周りの人に共有できたため。
- (3. 普通)
- もう少し一定の結論や指針のようなものを導くことにフォーカスした進め方が望ましいと感じました。
 - 自分には少しむずかしい話だったなと思った。
 - 大人達の話を聞いていて、さいしょの方はねむたかったです。正直言って、話の内容がよくわかりませんでした。
 - 話がむずかしくてよく分かんかったけどよかったです。
 - 円卓会議は、はじめて参加してみて着席者の人たちの話を聞いて、色々なっとくするところもあった。私は有意義な時間だと思ったが、今回のこども・若者と共に考えている感じがあまり見えなかった。お互いの意見を共有しあえる場としては、とてもいいと思った。
 - 話が長かった。途中から頭がいたくなつた。

でもちゃんと子どもの居場所などの点に関しては、きいててちゃんと考えててくれているとわかった。ただ、会議をひらくならもうちょっとまとまった状態でやってほしかった。

(2. 普通あまり満足していない)

- ・暇な時間が長かったうえ、タイムマネジメントが全くなされなかった。最初に中高生の参加を確認し、終了時間の案内もあったうえでのあの進行は正直ありえないと感じた。

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・「ワガママ」ってすごくいい言葉だと思いました。Viewを大切にしたいです。
- ・あまりにもあたりまえのことだけど、親の人権が守られていないのに子の人権が守られるはずはない。子供の問題は大人の問題でもあります。
- ・若者に聞かないとわからないことがある...ホント！です。だから youthだけによる円卓会議を見てみたい。
- ・余暇・余白って大切。自分に余裕はあるのだろうか。と考えました。陽翔さんが堂々と話をしていて頬もしく感じました。
- ・横にわがまま言っている人がいるのが大切。
- ・大人の余白時間を作るのもユースワークにつながる。場所の“目的”に目を向けがち、そうではない、そこから“自分”で“自分達”でやりたいを引き出す機会が重要かなと。
- ・地域づくりと一緒にやっていきたい。
- ・「大人の事情で、子どもたちの活動が制限されている」→小学校の部活動の指導者をしていますが、教員の働き方改革により、担い手がいなくなり、部活動が廃止している状況を耳にしている。地域展開し、民間に委託しても、経済的に、送迎問題で通えなくなり、「部活動」という誰もが参加できる居場所がなくなろうとしている。

- ・様々な人が話す場面が設けられていた点がとても良かったです。
- ・面白がるが誰でもできる。
- ・「子どものために」が大人の幸せになるというお話が印象に残った。そもそも大人も余裕がなければ意味がないなと考えさせられたため、印象的だった。
- ・大人のニーズが子供たちを圧迫していることが印象にのこった。
- ・子供たちの可能性を広げるためにしていることが逆に可能性をせばめているんだなあ～と思った。
- ・はるとの「わがまま」はすばらしいキーワードでした。
- ・事業の視点で福祉をブランディングする。箱にこども達が集まる為には、この視点もですが、上手く運営するために金銭的な余裕のある大人から収益を得る工夫もあれば良いのでは。また、その大人が行きたいと思える空間づくりブランディングかな？と思いました。
- ・ハルトさんの考えがとても良かったです。
- ・わがままを言える社会にしたい。
- ・真和志高校のとりくみが素晴らしいと思いました。ユース世代の話を直接聞く機会が中々なかったので、村吉さんを着席者にしてもらえてよかったです。意見もしっかりと聞いて素晴らしかったです。
- ・参加者同志の意見交換。
- ・ワガママをいえる社会が大切。
- ・ワガママを言っていい!!「ガチワガママ」いい言葉だと思った。まずは、子供達の声を聞く事は大事。
- ・川中さんの、地域を変えるとりくみをしていくこともユースワークという話が印象にのこった。おとなのおぜんだての中で子ども若者が自己実現にチャレンジすることは本来の目的ではない、子ども若者本人が自分のやりたいことをやる！を実現するための取り

組み（おとなとの対話も含め）をどんどん創ってけたらいい！

- ・ 雑談の中でポロッと言ったことにトライで失敗してもオモロかったらOK！と認められる体験がいいのだ！（発表できなかった若者の話）
- ・ ボランティアを単位として認めるアイデアが良いと思った。
- ・ 大人に余裕がないと、子供に優しくできないためまずは大人に余裕を持たせるために、社会が変わっていかなければならぬ話しが印象に残った。
- ・ 結局知られていない事が問題ではないかと思います。
- ・ 村吉さんのわがままを言う人が隣にいるという発言。
- ・ たなべ氏の民間サイドからの発言がヒントになった。マインドも含め、若者の物の見方・感じ方をとらえること。
- ・ 3セク、行政間の無意味で形だけの集まりが沢山ある中で、一般事業者の視点が入ると一気にそれらが変わらるような気がした。屋良教頭の取り組みについて、大変興味深く、時に学校外活動の評価についての先進的な姿勢は今後更に広がってほしいと感じた。
- ・ 子どもの権利を侵外するのは大人だという話し。大人も会社や社会から権利を侵外されているという話し。大人に必要なのはなんだろうと思った。わがまま言うは、難しい気もしている。
- ・ わがままになる。
- ・ 真和志高校での取り組みがかけた！
- ・ 陽翔さんの「一家に一人わがままを」がよかったです。
- ・ わがままでいう人一家に一台ほしいね。
- ・ サブセッションで、「正直、大人達が色々しゃべっていたけど、どうでもいい。子どもと若者の意見が聞きたい!!この円卓会議を子どもと若者だけでやればいいのに」と言っていた

て、たしかに!!とは思ったけど、いざこの円卓会議を子どもと若者だけで、自分の意見が言えるのだろうか、また、別のやり方で、意見が言えやすくする環境づくりが必要なのか、色々と考えてしまった。

- ・ 実際に子どもに聞いたりする時間をとるところはちゃんとよいと思った。
- ・ 公民館が使っていい場所か分からぬといふ意見が出ていてたしかにと思いました。そして、利用者として話していた陽翔さんの「わがままな人を一人配置させる」というアイデアはユースセンター利用者として良いアイデアだと思いました。利用していく自分からなにか「やりたい」などを最初に言うのはハーダルが高いので。

7. 会議運営へのご意見、感想等

- ・ 長い時間でもとても濃い時間であつという間でした！
- ・ Session1がながくて、聞く方の集中力が続きません。内容も重なる点が多くあって、発表者の数を少し減らすのはどうでしょう。山崎さんの発表は具体的でおもしろかったです。それと川中さんのお話しさはよく整理ができていておもしろおかしく聞かせていただきました。今回の大人による（ある意味大人のための）円卓会議だったような気がします。
- ・ とても学びになりました。運営ありがとうございました。
- ・ 大変勉強になります。ありがとうございました。
- ・ 他の会にも参加してみたいと感じました。
- ・ サブセッションで、他の人がどんな感じで話しているのか見てみたいです。
- ・ とてもよかったです。
- ・ 場をふやしても、子供たちの気持ちだったり、行くこと自体に、億劫になってしまふ空気をなくさないとなかなか解決できないと感じた。

- ・ 子どもの参加について運営メンバーは本気で考えたかが知りたい。休みはなく、時間も守らず、内容も・・・と会議の内容と運営体制にギャップを感じました。参加した子どもにも何か持って帰えらせることもできればよかったですと思いました。
- ・ セッション1が長かったと思いました。途中休けいがあってもいいかと思いました。

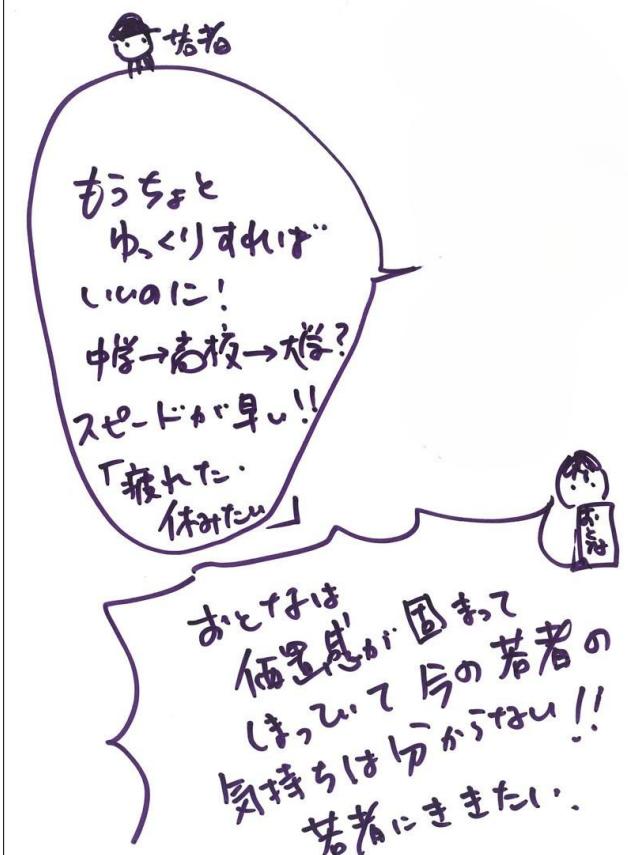
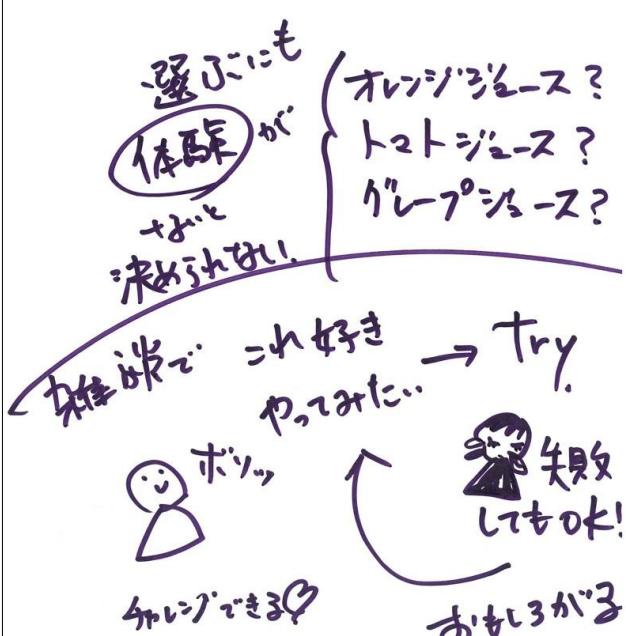
(写真) 会場の様子



- ・大人も忙しい 遊びにも疲れながら
- ・会場の参加者多く 若者支援の関心高い
- ・中学生6.7月からマジタス利用
- ・学校・児童館・公民館 熱意ある人に違うか向ける
- ・ワクルは支援してもらえる感覚ない 一緒に遊んでいい
- ・歌いたい人が歌える。
 (スタッフもやりたいことができる)
スタッフはどこまで自分見せる

学校 → もっと自由にしたい
 小学校高学年から不登校多く
 児童館 キャバの問題
 幼児の次にしたがって
 不登校の対応できない

何がしたい?
 ときかれても答えられないよ。



関わりの段階…?

かかわり方が
まずかい

「子どもを理解するニヒ」
といふふうにいって、大学生達
まずかい

知る

「こういう時どうしてはじめた?」
って言われるし、さき方にと思うけど
自分で考え

行ってやらねば → なぜか生きられない
ニヒもねば カラダにはなって

"ガチわがまま"きてほしい
行動おこさないから実現しない
おこしかがめからねば あいつか
いは問題に食いついて。

トト→子どもへの関わりですかい、
子ども→の、ちょっと嬉しい。
セーフといわれてもどうしよう…

- ・やりにくくなるけれど
- ・やりたいときに実現できる環境

つながりが必要

居場所が小学校の近くにある
と行つても立派な口くきうつやじたがんば
フロウ・ミン・スランフオードア
子供たちは居場所のパン屋へそよぎ
小学校も近くない同じところ
居場所を入る

かくら 立場もうかう中
たこさんあつまつてつむかはよど
じくれでいる

せんたくしからいい
100%含めようここつて大切
同じ性の人があつまとことと
色々な人があつまとこととかもある
いい
えんしながら人ととかかるよ
まだまだしか②

~~居場所でやった上でのことの
もうだらけんが~2~をみるが~~

やがてか出でようなこと。

寝る子もいるけどそれをやめて
 場所は“目的”をもとめすぎ
 大人と対トウに話す機会が少な
 大人と子供一緒にチームで
 競争出来る場所が必要
 老えをささぎるのもよくなないと
 老えすぎると子のことを大トモスル
 時間がなさすぎ。(何もない時間)

南区町連合
 共同
 中高生の居場所
アカデミー
アスレチック
公園
現実地
草球
) 居場所
 どんこく
 ケーブル...
 人材推進
 天才の居場所
 法務大臣室
 又弟
 又自殺
 おまけ
 防止行動
 インタビュ
 リー
 分かりにく
 い
 内
 こじえ

行政がそれなくないかと思ふ
 こばれる、見たい
 などつまれて
 ②重なるところなどくは掛け
 個性とは離れて
 学校に掲示だ?
 行政システムは、
 本心も筋も感じ
 実現可能か?
 (結果)手帳X.
 制度(大人同様)

新たな生徒の声
 制度
 吉祥が進む
 運営
 +運営
 つづけてくる子
 家庭環境
 現状が決める

発信の質
 行政の特性
 ↓
 情報の中継地点

利用
 システム

- ・学校に行きたかったけど居場所は
行きつけがない。
 - ・成長した後の支援について
手段はどういう場があるのか) イエニ
 - ・友人が居場所が必要としてるけど
ニトスル。(アライド)
 - ・来はさと知りたい。
居場所へつながる
ためにね?
 - ・初心の歩が必要。
 - ・情報が必要。
 - ・社会をつくる
 - ・セトにめぐらんがよい
人口が高いい
社会のまじめさ
 - ・自分の考えがゆうせん
- 学校のあり方
 個人の自由度
 学校での居場所

19-ラ うかじんぼう
問題：ポイ捨て... 排除。
人と関わる場所 → 仕事しかない。
いっしょに楽しかった場所
ニセモノ、若者。しゃわせ。
自治会、ニセモノ会
意見を言える
ことモノ・貧困対策
あらゆるところに縁引き
空白の時間に集まる
不登校モルール、「どうがきてもいい」

・まずかいきをしてもうまく
・ユースセンター・スタッフでもある子（親の仕事）
その場に娘も来ている（親の仕事）
子どもにとって安心・親も安心・子供も安心
・得失を提示する場をつくった。（おれ高橋）

・大人の余暇余白について改めて考えて。
・余暇時間について。マガジン→ゲーム・読書
川端→やうすい子供から（いじめ）
伊藤→独り、友人と。

①居場所

食事の提供だけでは良くない
インパクトがあった。

②児童館 公民館に弟が「行ってる。 (中学生)

→来ていいよの声かけがあった。
つながりがあるっていいなと思った。

③子どもの居場所

大人の事情でなくなっている。

[部活動がなくなっている]

保護者が見てくれば良いけど、
それなり学校だし部活動がなくなっている。

④19さい!!
色々な人・年代と関わって
みたい。
仲良くなりたい

地域格差
うまれている。

